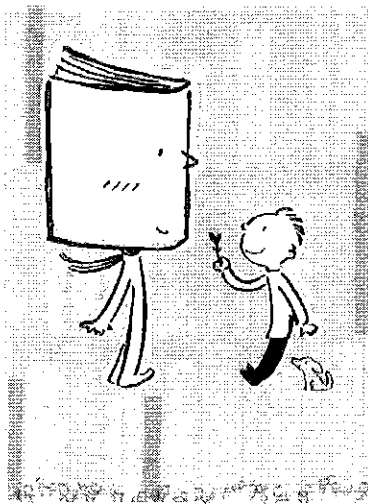


決断のとき

11月になりました。今年もあと2ヶ月、3年生はいよいよ受験校を決定する時を迎えました。先週の27日と28日に実力テストを実施、また、28日に進路説明会を行い、家族で話し合いをした結果を受けて、来週から三者面談を行い、受験校を最終決定するという流れになっています。

私も45年程前に三者面談を受けましたが、そのときの会話は今でも鮮明に覚えています。T:「松嶋～どこを受けると」「はい、島原高校です」T:「ほお～島原高校か～、あと5点でも下がると落ちるぞ、どうする?」「・・・頑張ります」T:「お母さん、どうですか?」「息子の言う通りで・・・」本当に10分程度で終わりました。そこから尻に火がついた

のは確かです。必死に勉強し、何とか合格できた(あとで高校の先生に聞いたのですが、405人中297番だったそうです)ので今があると思っています。やはり三者面談は緊張のときであり決断のときです。近年は生徒数が減少し、公立高校にいたっては定員割れも出ていますので、生徒の緊張感や危機感が薄れつつあります。だからといって油断は禁物です。この三者面談を機に決断し、覚悟を持って勉強に取り組んで欲しいと思います。3年生の更なる頑張りを期待しています。



読書の秋

毎年、年2回「読書週間」(こどもの読書週間:5/1~5/14、秋の読書週間:10/27~11/9)が実施されています。今年の秋の読書週間は第76回で、標語は「この一冊に、ありがとう」です。今まさに読書週間の真っ只中。できるだけ多くの本を手にして、「ありがとう」といえる一冊を見つけて欲しいと思います。

かく言う私も、そんなに多く本を読むほうではありません。一番多く読んだのは高校時代。週に一冊以上読んでいたと思います。ただ、今は月に一冊程度です。恥ずかしいばかりです。私にとっての「この一冊」は藤原正彦氏の「国家の品格」(初版2005年)です。既に何回も読んでいますが、いつ読んでも面白い

です。最近読んだのは和田秀樹氏の「人生100年 老年格差」。これは、老年に入りかけている(既に入った?)自分にとって参考になり、「なるほどなあ」と刺激を受けた一冊です。

いずれにしても、読書を続けていると、脳のつながりが強化され、記憶力や集中力が向上し、長生きにもつながるそうです。また、ストレスレベルを低下させる役割があるとのこと。大人にとっても子どもにとっても有益であることは確かです。ただ、なかなか習慣化するのは難しいこと。毎日、通勤時でもベッドに入る前でも、本を手取る時間を確保することが大事だそうです。確かに、私がなぜ高校時代にたくさん本を読んだかという、通学電車に往復2時間弱乗っており、その時間を有効活用したからでした。秋の夜長です。どうぞ親子で本を手にする時間を確保してください。きっと、「ありがとう」といえる一冊が見つかるはずです。